

平成26年度 スーパーグローバル大学等事業 「スーパーグローバル大学創成支援」

構想調書 【タイプA・タイプB】

1. 大学名	
	<p>「機関番号」欄には、科学研究費補助金の申請に使用する5ケタの機関番号 (https://www-kaken.jstps.go.jp/kaken1/kikanList.do) を正しく記入してください。</p>

[基本情報]

2. 構想名	<p>「2. 構想名」欄には、申請する構想の内容を端的に表す名称を全角40字程度で記入してください。</p>
3. 構想のキーワード	<p>「3. 構想のキーワード」欄には、大学の構想の取組を端的かつ簡易に理解できるように、キーワードを5つまで記入してください。</p>

4. 申請者 (大学の設置者)	ふりがな 氏名	所属 職名				
5. 構想責任者	ふりがな 氏名		<p>「5. 構想責任者」欄には、大学において構想の実現を担う者で、構想の実現に中心的役割を果たすとともに、その実現に責任を持つ者として、学長又は副学長の氏名及び所属・職名を記入してください。</p>			
6. 学生・ 教職員数			学生数		教職員数(H26.5.1)	
		入学定員 (平成26年度)	全学生数 (H26.5.1)	教員数	職員数	合計
	学部					0 人
	大学院					
合計	0 人	0 人				
7. 学部・ 研究科等名	学部数		研究科等数			
	(学部名)					
	(研究科等名)	<p>「7. 学部・研究科等名」欄には、学部数と研究科等数をそれぞれ記入した上で、全ての名称を記入してください。</p>				

(大学名：) (申請区分：)

8. 本事業経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て						
年度(平成)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
事業規模	0	0	0	0	0	0
内訳	補助金申請額	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <p>「補助金申請額」及び「大学負担額」の金額を年度ごとに記入してください(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。「事業規模」は、「補助金申請額」及び「大学負担額」が入力されると自動的に計算されます。なお、各年度とも「補助金申請額」は補助金基準額を超えないようにしてください。</p> </div>				
	大学負担額					
年度(平成)						
事業規模	0	0	0	0		0
内訳	補助金申請額					0
	大学負担額					0

- ※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金(公募要領P. 11参照)は「大学負担額」に計上しないこと。
- ※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと。
- ※3. 構想調書中、他の補助金事業の取組は「構想調書等の作成・提出方法」において示しているとおり、別の色で記載すること。ただし、事業経費欄には含めないこと。

9. 本事業事務担当課の連絡先 ※採択結果の通知、ヒアリング等の事務連絡先となります。				
部課名		所在地	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <p>記入いただく連絡先は、採択結果の通知及びヒアリングに係る連絡等に使用しますので、必ず連絡のとれる担当者を記入してください。連絡のつかない場合、ヒアリング等の対象外となる場合もありますので、注意してください。</p> </div>	
責任者	ふりがな 氏名	所属・職名		
担当者	ふりがな 氏名	所属・職名		
	電話番号	緊急連絡先		
	E-mail(主)	E-mail(副)		

- ※「9. 本事業事務担当課の連絡先」は、当該機関事務局の担当課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。
E-mail(主)は、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、(副)にも必ず別のメールアドレスを記入してください。

(大学名:) (申請区分:)

① 構想全体の概念図【1 ページ】 ※構想の全体像が分かる概念図を作成してください。

構想の全体像が分かるように、図表を用いて示してください。
なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように留意してください。
※1 ページ

② 工程表【1 ページ】

※全体計画を把握するため、10年間の工程表を作成してください。

全体計画を把握するため、横軸を年次（左：過去→右：未来）として
取組や活動を描画した10年間の工程表を作成してください。
※1 ページ

③ 共通観点 1（構想の創造性、展開性等）概念図【1 ページ】

「共通観点 1（構想の創造性、展開性等）」（様式 2）の構想が分かるように、図表を用いて示してください。
なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように留意してください。
※ 1 ページ

④ 共通観点 2（共通の成果指標と達成目標）概念図【1 ページ】

「共通観点 2（共通の成果指標と達成目標）」（様式 3）の構想
が分かるように、図表を用いて示してください。
なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように
留意してください。
※ 1 ページ

⑤ 共通観点 3 (大学独自の成果指標と達成目標) 概念図【1 ページ】

「共通観点 3 (大学独自の成果指標と達成目標)」(様式 4) の構想が分かるように、図表を用いて示してください。
なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように留意してください。
※ 1 ページ

⑥ 共通観点 4（構想実現のための体制構築）概念図【1 ページ】

「共通観点 4（構想実現のための体制構築）」（様式 5）の構想
が分かるように、図表を用いて示してください。
なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように
留意してください。
※ 1 ページ

⑦A 個別観点A-1（国際的評価の向上）及びA-2（国際的評価に関する教育・研究力）
概念図【1ページ】

タイプAの場合のみ作成

「個別観点A-1（国際的評価の向上）及びA-2（国際的評価に関する教育・研究力）」（様式6A及び様式7）の構想が分かるように、図表を用いて示してください。

なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように留意してください。

※1ページ

⑦B 個別観点B（大学の特性を踏まえた特徴）概念図【1ページ】

タイプBの場合のみ作成

「個別観点B（大学の特性を踏まえた特徴）」（様式6B）の構
想が分かるように、図表を用いて示してください。

なお、作成にあたっては、構想の内容が具体的に把握できるように
留意してください。

※1ページ

共通観点 1 創造性、展開性等【4 ページ以内】

- 構想・ビジョンが、各大学の理念等と整合し、かつ戦略性
 になっているか。タイプに合った革新性、先見性及び先導性あ
 り、大学全体の底上げが認められる内容となっているか。

※【大学の理念】、【本構想の目的】及
 び【本構想における取組概要】合わせて
 4 ページ以内

【大学の理念】

大学の理念を具体的に記入してください。

【本構想の目的】

本構想調書の各様式に記載する内容を踏まえ、上記○印の観点に留
 意の上、本構想の目的が分かるように記入してください。

【本構想における取組概要】

本構想調書の各様式に記載する内容を踏まえ、上記○印の観点に留
 意の上、本構想における取組概要が分かるように記入してくださ

共通観点 2 共通の成果指標と達成目標

○ 前提条件となる事項（大学改革、国際化等）に関し、「スーパーグローバル大学」に相応しい実績を有し、かつ目標設定がなされているか。
※各指標の定義は記入要領によること。

1. 国際化関連 (1) 多様性

①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国人教員等 (A)	人	人	人	人
うち外国籍教員	人			人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	人			人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	人			人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	人			人
全専任教員数 (B)	人			人
割合 (A/B)	%	%	%	%

外国の大学で学位を取得し、かつ外国で通算1年以上又は3年以上の教育研究歴のある日本人教員の場合は、「うち外国の大学で学位を取得した日本人教員」の方に計上し、重複がないようにしてください。

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国籍の教員、外国の大学で学位を取得した日本人教員、外国で通算1年以上又は3年以上の教育研究歴のある日本人教員について、それぞれの数と合計値及び全体に占めるその割合を記入してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

1. 国際化関連 (1) 多様性

②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国人職員等 (A)	人			人
うち外国籍職員	人			人
うち外国の大学で学位を取得した日本人職員	人			人
うち外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員	人			人
全専任職員数 (B)	人			人
割合 (A/B)	%			%

外国の大学で学位を取得し、かつ外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員の場合は、「うち外国の大学で学位を取得した日本人職員」の方に計上し、重複がないようにしてください。

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国籍の職員、外国の大学で学位を取得した日本人職員及び外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員について、それぞれの数と合計値及び全体に占めるその割合を記入してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

【本構想における取組】

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

1. 国際化関連 (1) 多様性

③教職員に占める女性の比率【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
女性教員 (A)	人	人	人	人
全専任教員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	%	%	%	%
女性職員 (C)	人	人	人	人
全専任職員数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、男女共同参画推進の視点から、女性教員、女性職員の数及び専任教職員それぞれの中で女性の占める割合を記入してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

教職員に占める女性の比率について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

【本構想における取組】

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

1. 国際化関連 (1) 多様性

④全学生に占める外国人留学生の割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日及び通年の数値を記入

	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国人留学生数 (A)	人	人	人	人
うち、在留資格が「留学」の者	人	人	人	人
うち、在留資格が「留学」以外の者	人	人	人	人
全学生数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	%	%	%	%
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
外国人留学生数 (C)	人	人	人	人
うち、在留資格が「留学」の者	人	人	人	人
うち、在留資格が「留学」以外の者	人	人	人	人
全学生数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国人留学生の内、在留資格が「留学」の数に加え、「留学」の在留資格を有さない短期留学生等を含む全体数と、それぞれの合計値及び全体に占める割合を記入してください。

各年度5月1日及び通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

全学生に占める外国人留学生の割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

1. 国際化関連 (2) 流動性

①日本人学生に占める留学経験者の割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
単位取得を伴う海外留学経験者数 (A)	人	人	人	人
うち学部 (B)	人	人	人	人
うち大学院 (C)	人	人	人	人
全学生数 (D)	人	人	人	人
うち学部 (E)	人	人	人	人
うち大学院 (F)	人	人	人	人
割合 (A/D)	%	%	%	%
割合 (B/E)	%	%	%	%
割合 (C/F)	%	%	%	%
3ヶ月以上研究派遣された大学院生数 (G)	人	人	人	人
割合 (G/F)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、日本国籍を有している正規学生の内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数及び割合を記入してください。この場合、留学期間は問いません。また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数及び割合を記入してください。この場合、単位取得の是非は問いません。

各年度通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

日本人学生に占める留学経験者の割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

1. 国際化関連 (2) 流動性

②大学間協定に基づく交流数【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	人	人	人	人
うち単位取得を伴う学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴う大学院生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない大学院生数	人	人	人	人
全学生数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	%	%	%	%
大学間協定に基づく受入外国人留学生数 (C)	人	人	人	人
うち単位取得を伴う学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴う大学院生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない大学院生数	人	人	人	人
全学生数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国の大学との連携・交流協定に基づき交流する／した学生数とその割合を記入してください。また、日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数それぞれを記入してください。

各年度通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

大学間協定に基づく交流数について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

根拠資料として、「平成25年度において派遣、受入実績のある大学間協定の、協定名と派遣、受入人数の一覧」を必ず提出してください。(様式任意)

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (3) 留学支援体制

①日本人学生の留学についての支援体制の構築【1 ページ以内】

【これまでの取組】

日本人学生の留学についての支援体制の構築について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1 ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

日本人学生の留学を促進する十分な体制を構築している／しようとしているか。また、その際は留学先でのリスク回避や危機管理等についても、十分な指導を事前に行っているか。

例) 支援専門員の配置、留学先や奨学金情報の提供、留学の事前・事後研修の実施等

【本構想における取組】

1. 国際化関連 (3) 留学支援体制

②外国人留学生等の支援体制の構築【1ページ以内】

【これまでの取組】

外国人留学生等の支援体制の構築について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

外国人留学生の留学を支援する十分な体制を構築している／しようとしているか。また、外国人教員や留学生の配偶者等家族への支援として、例えば言語サポート等、支援の充実を図っているか。
例) 留学生支援員の配置、語学サポート、生活サポート、〇〇国DAYの実施、ホスト・ファミリー制度、会話パートナー等

【本構想における取組】

1. 国際化関連 (4) 語学力関係

①外国語による授業科目数・割合【2ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国語による授業科目数(A)	科目	科目	科目	科目
うち学部(B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院(C)	科目	科目	科目	科目
英語による授業科目数(D)	科目	科目	科目	科目
うち学部	科目	科目	科目	科目
うち大学院	科目	科目	科目	科目
全授業科目数(E)	科目	科目	科目	科目
うち学部(F)	科目	科目	科目	科目
うち大学院(G)	科目	科目	科目	科目
割合(A/E)	%	%	%	%
割合(B/F)	%	%	%	%
割合(C/G)	%	%	%	%
割合(D/E)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国語及び英語による授業科目数（語学としての授業を除く）と全授業科目数に占める割合を記入してください。

なお、外国語（又は英語）による授業科目とは、全授業を日本語ではなく外国語（又は英語）で実施する授業科目のことです。
また、同一の授業科目で複数セクションが設けられている場合は、それぞれ独立した授業科目として数に含めてください。

各年度通年の数値を記入してください。

数値については半角で記入してください。

小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

外国語による授業科目数・割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて2ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

外国語（主に英語）による授業科目（語学としての授業を除く）の設置を進めているか。その場合、その授業科目数と全科目に占める割合はどの程度か。

根拠資料として、「平成25年度の外国語による授業科目の一覧」を必ず提出してください。（様式任意）

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (4) 語学力関係

②外国語のみで卒業できるコースの数等【2ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国語のみで卒業できるコースの設置数 (A)	コース	コース	コース	コース
うち学部 (B)	コース	コース	コース	コース
うち大学院 (C)	コース	コース	コース	コース
全学位コースの数 (D)	コース	コース	コース	コース
うち学部 (E)	コース	コース	コース	コース
うち大学院 (F)	コース	コース	コース	コース
割合 (A/D)	%	%	%	%
割合 (B/E)	%	%	%	%
割合 (C/F)	%	%	%	%
外国語のみで卒業できるコースの在籍者数 (G)	人	人	人	人
うち学部 (H)	人	人	人	人
うち大学院 (I)	人	人	人	人
全学生数 (J)	人	人	人	人
うち学部 (K)	人	人	人	人
うち大学院 (L)	人	人	人	人
割合 (G/J)	%	%	%	%
割合 (H/K)	%	%	%	%
割合 (I/L)				

【実績及び目標設定】に、外国語のみで卒業できるコースの設置数、全卒業コースの設置数、外国語のみで卒業できるコースの在籍者数及び全学生数に占める割合を記入してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

外国語のみで卒業できるコースの数等について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて2ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

外国語（主に英語）による授業科目（語学としての授業を除く）のみで卒業できるコースの設置を進めているか。設置されている場合、当該コース数と全学位コースに占める割合、在籍者数及び全学生に占める割合はどの程度か。

根拠資料として、「平成25年度の外国語のみで卒業できるコースの一覧」を必ず提出してください。（様式任意）

【これまでの取組】

【本構想における取組】

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (4) 語学力関係

③日本語教育の充実【1ページ以内】

【これまでの取組】

日本語教育の充実について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

【本構想における取組】

外国人留学生や外国人研究者に対する充実した日本語教育の体制が構築されているか。

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (4) 語学力関係

④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度大学が定める時点の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
	()	()	()	()
外国語力基準				
外国語力基準を満たす学生数 (A)	人	人	人	人
うち学部 (B)	人	人	人	人
うち大学院 (C)	人	人	人	人
全学生数 (D)	人	人	人	人
うち学部 (E)	人	人	人	人
うち大学院 (F)	人	人	人	人
割合 (A/D)	%	%	%	%
割合 (B/E)	%	%	%	%
割合 (C/F)	%	%	%	%

大学が定める時点を記入してください。

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国語力基準、当該基準を満たす学生数及び全学生数に占める割合を記入してください。

各年度大学が定める時点の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

【本構想における取組】

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

特定の言語について、学生の語学レベルを全学的に測定・把握するとともに、語学力向上のための積極的な取組を、責任をもって戦略的・組織的に実施しているか。その場合、学生の取得すべき外国語力基準の設定及びその対象となる学生数並びに全学生に占める割合はどの程度か。

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性

①ナンバリング実施状況・割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
ナンバリングを行っている授業科目数 (A)	科目	科目	科目	科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (D)	科目	科目	科目	科目
うち学部 (E)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (F)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/D)	%	%	%	%
割合 (B/E)	%	%	%	%
割合 (C/F)	%	%	%	%

【これまでの取組】

以下の点に留意して、【実績及び目標設定】に、ナンバリングを行っている科目数、全授業科目数及び割合を記入してください。

- ・教育課程における開設科目を計上してください。
- ・同一の授業科目で複数セッションが設けられている場合でも、1つの授業科目として計上してください。
- ・語学としての授業も含めて計上してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。

数値については半角で記入してください。

小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

ナンバリング実施状況・割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

外国の大学との連携を容易にするとともに、学生の適切な授業科目選択の一助とする観点から、学修の段階や順序等を表して教育課程の体系性を明示しているか/する予定があるか。

根拠資料として、「平成25年度のナンバリングされている授業科目の一覧」を必ず提出してください。(様式任意)

(大学名:)(申請区分:)

1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性

② GPA 導入状況【1 ページ以内】

【これまでの取組】

GPA 導入状況について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1 ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

成績評価について、厳格な成績評価や外国の大学との連携における成績評価の互換性の観点から、全学的に GPA 制度を導入しているか。併せて、進級要件や成績低迷者への指導、奨学金支給要件や優秀者表彰など、他の取組と機能的に関連づけて活用しているか。

【本構想における取組】

1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性

③シラバスの英語化の状況・割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
シラバスを英語化している授業科目数 (A)	科目	科目	科目	科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (D)	科目	科目	科目	科目
うち学部 (E)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (F)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/D)	%	%	%	%
割合 (B/E)	%	%	%	%
割合 (C/F)	%	%	%	%

【これまでの取組】

以下の点に留意して、【実績及び目標設定】に、シラバスを英語化している科目数、全授業科目数及び割合を記入してください。

- ・教育課程における開設科目を計上してください。
- ・同一の授業科目で複数セクションが設けられている場合、それぞれ独立した授業科目として数に含めてください。
- ・語学としての授業を含めて計上してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。

数値については半角で記入してください。

小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

シラバスの英語化の状況・割合について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

シラバスを全科目のうち何割程度英語化しているか。また、内容について、単なる授業概要にとどまらず、科目の到達目標や学生の学修内容、準備学修の内容、成績評価の方法・基準・配分などが明示されたものとなっているか。

英語以外によるシラバスの多言語化の状況については、【これまでの取組】及び【本構想における取組】に記入してください。

根拠資料として、「平成25年度の英語化したシラバスの一覧」を必ず提出してください。(様式任意)

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性

④教育プログラムの国際通用性と質保証【1ページ以内】

【これまでの取組】

教育プログラムの国際通用性と質保証について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

学内の教育プログラムが、国際通用性の高い質保証を伴う内容となっているか。例えば、英語で授業を実施する教員の授業運用力向上に関する研修を実施したり、専門課程についてはJABEEやAACSBなど、第三者機関による分野別の認定・認証を受けている等、国際的な通用性及び評価に配慮したものとなっているか。

【本構想における取組】

根拠資料として、「これまでの取組の事実関係を確認できる資料(分野別の認定・認証を受けている際の認定証の写し)」を必ず提出してください。(様式任意)

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

①柔軟な学事暦の設定の有無【1ページ以内】

【これまでの取組】

柔軟な学事暦の設定の有無について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

外国人留学生の受入と日本人学生の派遣を促進する上で重要な要素である、学事暦の柔軟化に取り組んでいるか。その場合、どの程度の規模（部局）で実施しているか。

例) 秋入学、クォーター制度の導入、始業期・終業期の変更等

【本構想における取組】

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

②入試における国際バカロレアの活用【1ページ以内】

【これまでの取組】

入試における国際バカロレアの活用について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

大学入学者選抜において、国際バカロレア資格及びその成績（スコア）を積極的に活用し、その旨を募集要項等において具体的に記載しているか。また、帰国生等に限らず、国内の日本人生徒の有資格者を対象に含み、そのことが明示されているか。（昭和54年告示により、IB資格を有する者で18歳に達したものを、大学入学に関し高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者として指定済み。）

【本構想における取組】

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

③ 渡日前入試、入学許可の実施等【1 ページ以内】

【これまでの取組】

渡日前入試、入学許可の実施等について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1 ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

【本構想における取組】

外国人留学生の獲得において、渡日前の現地における入学者選抜及び入学許可や、適切な出願・選考スケジュールを実施しているか。

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

④奨学金支給の入学許可時の伝達【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数(A)	人	人	人	人
奨学金を取得した外国人留学生数(B)	人	人	人	人
割合(A/B)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数及び奨学金を取得した外国人留学生数に占める割合を記入してください。

各年度通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

奨学金支給の入学許可時の伝達について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

【本構想における取組】

以下の点に留意して記入してください。

外国人留学生の獲得において、奨学金の支給確定の旨を入学許可時に対象者に伝達しているか。その場合、どの程度の規模(全学/特定の部局)で実施しているか。

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

⑤混住型学生宿舎の有無【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数(A)	人	人	人	人
留学生宿舎に入居している外国人留学生数(B)	人	人	人	人
割合(A/B)	%	%	%	%
混住型宿舎に入居している日本人学生数(C)	人	人	人	%
全日本人学生数(D)	人	人	人	人
割合(C/D)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数、留学生宿舎に入居している外国人留学生数に占める割合、混住型宿舎に入居している日本人学生数及び全日本人学生数に占める割合を記入してください。
 なお、日本人学生数(C)及び(D)については、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生とします。

各年度5月1日の数値を記入してください。
 数値については半角で記入してください。
 小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

混住型学生宿舎の有無について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

【本構想における取組】

以下の点に留意して記入してください。

外国人留学生支援において重要な要素である留学生用宿舎の確保について、当該施設が日本人学生との混住型となっているか。また、その促進についてどのような計画があるか。その場合、対象となる外国人留学生数(大学が用意している宿舎に居住している外国人留学生(学生が独自にアパート等を借り上げている場合は含まない)の内、混住型宿舎に入居している数)及び日本人学生(全日本人学生の内、当該混住型宿舎に入居している数)の数並びにそれぞれの割合はどの程度か。

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

⑥海外拠点の数及び概要【1ページ以内】

【これまでの取組】

海外拠点の数及び概要について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

教育研究活動の国際展開の形態の一つとして、海外に常設（原則として拠点の営業日が週3日以上であること）している拠点の数及び概要。なお、他大学との連携により共同で設置している場合も含むものとする。

【本構想における取組】

(大学名：) (申請区分：)

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

⑦外国人留学生OBの積極的活用【1ページ以内】

【これまでの取組】

外国人留学生OBの積極的活用について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

卒業・修了済みの外国人留学生について、例えば外国現地における同窓会組織の設置等ネットワーク化を図り、現地の留学生入試等や日本人学生の派遣に係る支援体制を構築している等、積極的な活用策を展開しているか。

【本構想における取組】

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

⑧外国語による情報発信等【1ページ以内】

【これまでの取組】

外国語による情報発信等について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

大学の概要のみならず、入試、奨学金、教育プログラム、履修登録、卒業要件、生活支援等、全般にわたり英語を始めとする外国語による情報発信がWEB等においてなされている等、国際的に積極的な広報活動が展開されているか。

【本構想における取組】

(大学名：) (申請区分：)

2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム

①年俸制の導入【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
年俸制適用者(教員)数(A)	人	人	人	人
全専任教員数(B)	人	人	人	人
割合(A/B)	%	%	%	%
年俸制適用者(職員)数(C)	人	人	人	人
全専任職員数(D)	人	人	人	人
割合(C/D)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、教職員の流動性向上の観点から、教員及び職員について、それぞれ全専任教員数及び全専任職員数に占める年俸制適用者の割合を記入してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

年俸制の導入について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

【本構想における取組】

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム

②テニュアトラック制の導入【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
テニュアトラック対象者数 (A)	人	人	人	人
年間専任教員採用者数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、教員の流動性向上の観点から、一年間の専任採用者数に占めるテニュアトラック対象者の割合を記入してください。

各年度通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

テニュアトラック制の導入について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

【本構想における取組】

2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム	
③国際通用性を見据えた人事評価制度の導入・活用【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>国際通用性を見据えた人事評価制度の導入・活用について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>外国からの教職員雇用を促進するに足る、国際通用性ある人事評価制度を有している／導入するものとなっているか。</p> <p>例) 全学統一的な評価基準の設定、教育活動の適正な評価、教員同士のピア・レビュー等</p>

(大学名：) (申請区分：)

2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム	
④国際通用性を見据えた採用と研修【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>国際通用性を見据えた採用と研修について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>一定の語学力を要件づける等、国際通用性を見据えた採用やFD・SD等研修がなされているか。</p> <p>例) 教員採用段階の模擬授業の実施、職員の中期の海外派遣研修等</p>

(大学名：) (申請区分：)

2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス

①事務職員の高度化への取組【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国語力基準				
外国語力基準を満たす専任職員数(A)	人	人	人	人
全専任職員数(B)	人	人	人	人
割合(A/B)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、外国語力基準、当該基準を満たす職員数及び全職員数に占める割合を記入してください。

各年度5月1日の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

事務職員の高度化への取組について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

【本構想における取組】

以下の点に留意して記入してください。

「教職協働」に向けた取組として、学長のリーダーシップの補佐とともに教育・学修支援機能の充実という観点から、高度専門職系の職員の安定的な採用・育成に取り組んでいるか、計画があるか。また、目標達成に必要な専任職員像と特に重要なスキルの定義が明確となっているか。加えて、職員の達成すべき外国語力基準を設定し、例えばその学修履歴を人事評価の対象とする等取り組んでいるか。その際、外国語力基準設定の対象となる職員数並びに全職員に占める割合はどの程度か。

例) 国際系アドミニストレーター職員、UEA (University Education Administrator)、レジストラー、アドミッション・オフィサー、専門学位を有したライブラリアン等

2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス	
②具体的ビジョン、中期計画等の策定【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>具体的ビジョン、中期計画等の策定について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>各大学(もしくは設置者である大学法人や地方公共団体)において、国際戦略として具体的ビジョンや中期計画等を策定し、構想の実現可能性を説明できる体制となっているか。策定されている場合、本構想がこれらビジョン等と整合性の取れた形となっているか。</p>

(大学名：) (申請区分：)

2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス

③迅速な意思決定を実現する工夫【1ページ以内】

【これまでの取組】

迅速な意思決定を実現する工夫について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

【本構想における取組】

ガバナンス改革の一環として、グローバルな時代に合った迅速な意思決定が可能な全学的な組織構造となっているか。

2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス	
④意思決定機関等への外国人の参画【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>意思決定機関等への外国人の参画について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>経営協議会や教育研究協議会などに加え、外部評価委員会等、大学の意思決定機関や評価機関等において、外国人の参画により国際的な見地を確保しているか。</p>

(大学名：) (申請区分：)

2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス	
⑤ I R機能の強化・充実【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>I R機能の強化・充実について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>適切なガバナンスを働かせ大学の評価の向上を図るため、大学が自ら置かれている客観的な状況について調査研究し十分に把握する、I R機能の強化・充実を実践しているか。</p>

(大学名：) (申請区分：)

3. 教育の改革的取組関連 (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保

①学生の実質的学びの時間の確保に関する取組【1ページ以内】

【これまでの取組】

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

学生の能力をどう伸ばすかという学生本位の視点に立った教育へと質的転換を図るため、事前の準備、授業の受講、事後の展開といった能動的な学修過程に要する質を伴った学習時間の実質的な増加・確保への取組がなされているか。

例) アクティブ・ラーニングの導入、教育課程の体系化、全学的な教学マネジメントの確立等

【本構想における取組】

3. 教育の改革的取組関連 (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保

②学生の主体的参加と大学運営への反映の促進【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
学生による授業評価実施授業科目数 (A)	科目	科目	科目	科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (D)	科目	科目	科目	科目
うち学部 (E)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (F)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/D)	%	%	%	%
割合 (B/E)	%	%	%	%
割合 (C/F)	%	%	%	%

【これまでの取組】

以下の点に留意して、【実績及び目標設定】に、学生による授業評価実施科目数、全授業科目数及び割合を記入してください。

- ・各年度開講科目を計上してください。
- ・同一の授業科目で複数セッションが設けられている場合、それぞれ独立した授業科目として数に含めてください。
- ・語学としての授業も含めて計上してください。

各年度通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

【本構想における取組】

学生の主体的参加と大学運営への反映の促進について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

学内の様々な活動において、学生の参加を促し、また、学生の声を大学運営に反映させる取組を実施しているか。特に、授業活動については、各授業に対する学生からの評価を実施し、教育の質の向上に活用しているか。その場合、全授業科目に占める学生評価実施科目の割合はどの程度か。

3. 教育の改革的取組関連 (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保	
③ TA 活用の実践【1 ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>TA 活用の実践について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1 ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>TA の活用において、単なる経済視点的及び教務補助的観点ではなく、TA 自身にとっても、教育経験を積むことを通じて学修した知識の定着や、全体を俯瞰しながら知識・能力を伝授する大学教員等としての経験醸成等に高い効果があるものとして、積極的・組織的な運用がなされているか。</p>

(大学名：) (申請区分：)

3. 教育の改革的取組関連 (2) 入試改革

①TOEFL 等外部試験の学部入試への活用【1 ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
対象入学定員数 (A)	人	人	人	人
全入学定員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	%	%	%	%

【これまでの取組】

【実績及び目標設定】に、TOEFL 等外部試験による入学定員数及び全入学定員数に占める割合を記入してください。

各年度通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。

TOEFL 等外部試験の学部入試への活用について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1 ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

【本構想における取組】

入学志願者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、TOEFL や IELTS 等の結果を、大学院のみならず学部一般入試に活用しているか。その場合、どの程度の規模 (全学/特定の部局) で活用しているか。対象となる学部入学定員数及び全入学定員数に占める割合は、どの程度か。

3. 教育の改革的取組関連 (2) 入試改革	
②多面的入学者選抜の実施【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>多面的入学者選抜の実施について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>入学志願者の能力、意欲、適性や活動歴などを多面的・総合的に評価・判定する観点から、インターンシップやボランティア活動、海外留学・研修等の評価を入学者選抜に活用し、その旨を募集要項等において具体的に記載しているか。</p>

(大学名：) (申請区分：)

3. 教育の改革的取組関連 (3) 柔軟かつ多様なアカデミック・パス

①柔軟な転学科・転学部、Late Specialization 等【1 ページ以内】

【これまでの取組】

柔軟な転学科・転学部、Late Specialization 等について、【**これまでの取組**】及びそれを踏まえた【**本構想における取組**】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【**これまでの取組**】及び【**本構想における取組**】と合わせて1 ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

学生本位の視点から、学生の学習ニーズの多様化や学修の過程における将来の進路の変更希望や社会人の学び直しに対応できるよう、柔軟かつ多様なアカデミック・パスを選択できる体制が導入されているか。また、学生に対する進路指導として、ガイドラインの策定やガイダンスの実施等、適切な支援体制が構築されているか。

例) 転学科・転学部の容易化、Late Specialization、アカデミック・アドバイザー制度の導入等

【本構想における取組】

3. 教育の改革的取組関連 (3) 柔軟かつ多様なアカデミック・パス

②早期卒業・入学、5年一貫制課程等【1ページ以内】

【これまでの取組】

早期卒業・入学、5年一貫制課程等について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

学生の能力、適性に応じた教育を行いその成果を適切に評価していく観点から、柔軟な制度を導入しているか。

例) 早期卒業(学校教育法第89条)、早期卒業と博士課程在学期間の特例(大学院設置基準第17条)の組み合わせによる5年一貫制課程での博士号取得等

【本構想における取組】

4. その他	
(1) 教育情報の徹底した公表【1ページ以内】	
【これまでの取組】	<p>教育情報の徹底した公表について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。</p> <p>※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて1ページ以内</p>
【本構想における取組】	<p>以下の点に留意して記入してください。</p> <p>中退率や就職率、卒業生の進路状況等も含め、徹底した情報公開を行っているか。</p>

(大学名：) (申請区分：)

共通観点 3 大学独自の成果指標と達成目標【3 ページ以内】

○ 意欲的かつ挑戦的な独自の定量・定性的成果指標と達成目標が、各大学の構想に応じて設定されているか。

【実績及び目標設定】各指標の大学が定める時点（又は通年）を記入してください。

各年度大学が定める時点又は通年の数値を記入

	平成 25 年度	平成 28 年度	平成 31 年度	平成 35 年度
	()	()	()	()
(指標 1)	(人)	(人)	(人)	(人)
(指標 2)	(人)	(人)	(人)	(人)
	平成 25 年度 (通年)	平成 28 年度 (通年)	平成 31 年度 (通年)	平成 35 年度 (通年)
(指標 3)	(回)	(回)	(人)	(回)
(指標 4)	(人)	(人)	(人)	(人)
(指標 5)	(%)	(%)	(%)	(%)

() 内の単位は適宜変更してください。

記入しない行は削除してください。また、行が足りない場合は、行を適宜追加してください。

<定性的>

(指標) を削除の上、大学独自の定量的成果指標を記入してください。

【実績及び目標設定】に、意欲的かつ挑戦的な独自の定量的成果指標又は定性的成果指標を設定し、その現在の実績及び目標を記入してください。

【これまでの取組】

各年度大学が定める時点又は通年の数値を記入してください。
数値については半角で記入してください。
小数は、第 2 位を四捨五入して、第 1 位まで記入してください。

設定した大学独自の成果指標と達成目標について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。
※【実績及び目標設定】、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて 3 ページ以内

【本構想における取組】

(大学名：) (申請区分：)

共通観点 4 構想実現のための体制構築【2 ページ以内】

- 構想を推進し実現できるだけの学内体制の整備が計画されているか。環境の変化に応じ自己変革できる体制を構築できているか。また、事業終了後も継続して取り組むものとなっているか。

【本構想における取組】

構想実現のための体制構築について、上記の内容に留意し、**【本構想における取組】**を、具体的に記入してください。

※ 2 ページ以内

本事業の実施計画	
① 現在の準備状況及び年度別実施計画【3ページ以内】	
【構想実施に向けた準備状況】	
<div style="border: 1px dashed red; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><p>構想全体の「①現在の準備状況及び年度別実施計画」について、具体的に記入してください。</p><p>※【構想実施に向けた準備状況】及び【平成26年度】～【平成35年度】と合わせて3ページ以内</p></div>	
【平成26年度】	
【平成27年度】	
【平成28年度】	
【平成29年度】	

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】

【平成33年度】

【平成34年度】

【平成35年度】

(大学名：) (申請区分：)

② 財政支援期間終了後の事業展開【1 ページ以内】

構想全体の「**②財政支援期間終了後の事業展開**」について、具体的に記入してください。
※1 ページ以内

③ 財政支援期間終了後の事業展開に向けた資金計画

※本項目については、採択された大学に対して中間評価時に記入していただく予定としております。申請段階で記入する必要はありません。

(大学名：) (申請区分：)

個別観点 A-1 国際的評価の向上【2 ページ以内】

- 国際的評価の向上につながる取組となっているか。

【これまでの取組】

タイプ A の場合のみ作成

国際的評価の向上につながる取組について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて2 ページ以内

【本構想における取組】

個別観点 A-2 国際的評価に関する教育・研究力

- 国際的評価において上位に入るだけの教育・研究力を有しているか。

(1) 国際的評価

①国際的評価にて強みのある分野の有無【2 ページ以内】

【これまでの取組】

タイプ A の場合のみ作成

国際的評価にて強みのある分野の有無について、【これまでの取組】及びそれを踏まえた【本構想における取組】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて2 ページ以内

以下の点に留意して記入してください。

何らかの国際的評価を示す指標において、上位の国際的評価を示す分野を有しているか。

【本構想における取組】

個別観点B 大学の特性を踏まえた特徴【4ページ以内】

- 各大学の特性を踏まえた、特徴ある取組となっているか。

【これまでの取組】

タイプBの場合のみ作成

各大学の特性を踏まえた、特徴ある取組について、【**これまでの取組**】及びそれを踏まえた【**本構想における取組**】を、それぞれの該当箇所に具体的に記入してください。

※【**これまでの取組**】及び【**本構想における取組**】と合わせて4ページ以内

【本構想における取組】

(大学名：) (申請区分：)

他の公的資金との重複状況【1 ページ以内】

- 当該申請大学において、今回申請している構想に含まれる他の補助金に、文部科学省が行っている国際化拠点整備事業費補助金、大学改革進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している事業（大学教育再生加速プログラム、大学の世界展開力強化事業等）がある場合は、それらの取組名称及び内容について、1 事業につき 3～4 行程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。

他の公的資金との重複状況について、上記の内容に留意し、具体的に記入してください。

※ 1 ページ以内

支援期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

(単位：千円)

補助金申請ができる経費は、当該構想の遂行に必要な経費であり、本事業の目的であるスーパーグローバル大学創成支援のための用途に限定されます。(平成26年度スーパーグローバル大学創成支援公募要領参照。)【年度ごとに1ページ】

記載例：教材印刷費 ○○○千円
 ○○部×@○○○円
 謝金 ○○○千円
 ○○人×@○○○円

＜平成26年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]					
①設備備品費	年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ				
②消耗品費					
[人件費・謝金]					
①人件費	経費の支出計画について、「公募要領(別添1)経費の用途可能範囲」の区分により、「経費区分」欄に、それぞれの費目の内訳がある程度分かるように記入してください。				
②謝金					
[旅費]					
				大学負担額を計上している場合は、各費目内訳の「大学負担額」欄に金額を記入してください。	
[その他]					
①外注費	「該当ページ」欄には、経費がどのような目的で使用されるのかがわかるように、それぞれの経費に関連のある様式番号と行数を記入してください。 例：様式3(3)②30行目				
②印刷製本費					
③会議費					
④通信運搬費					
⑤光熱水料					
⑥その他(間接経費)	タイプAは、補助対象経費の内数の1割を上限に、間接経費として支出することが可能です。 間接経費を計上する場合は補助金申請額合計の1割以下になるように調整した金額を記入してください。 ※タイプBは、間接経費が無い場合、間接経費の記入欄はありません。				
[間接経費]					
平成26年度		前項目から通しとなるようにページ番号を付番してください。			

(大学名：) (申請区分：)

(前ページの続き)

＜平成27年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
<p>[物品費]</p> <p>①設備備品費 ・ ・ ・ ②消耗品費 ・ ・ ・</p>					
<p>年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ</p>					
<p>[人件費・謝金]</p> <p>①人件費 ・ ・ ②謝金 ・ ・ ・</p>					
<p>[旅費]</p> <p>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</p>					
<p>[その他]</p> <p>①外注費 ・ ・ ②印刷製本費 ・ ・ ③会議費 ・ ・ ④通信運搬費 ・ ・ ⑤光熱水料 ・ ・ ⑥その他(諸経費) ・ ・ ・</p>					
<p>[間接経費]</p>					
平成27年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成 2 8 年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
<p>[物品費]</p> <p>①設備備品費 ・ ・ ・ ②消耗品費 ・ ・ ・</p>					
<p>年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに 1 ページ</p>					
<p>[人件費・謝金]</p> <p>①人件費 ・ ・ ②謝金 ・ ・ ・</p>					
<p>[旅費]</p> <p>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</p>					
<p>[その他]</p> <p>①外注費 ・ ・ ②印刷製本費 ・ ・ ③会議費 ・ ・ ④通信運搬費 ・ ・ ⑤光熱水料 ・ ・ ⑥その他（諸経費） ・ ・ ・</p>					
<p>[間接経費]</p>					
平成 2 8 年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成 29 年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
<p>[物品費]</p> <p>①設備備品費 ・ ・ ・ ②消耗品費 ・ ・ ・</p>					
<p>年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに 1 ページ</p>					
<p>[人件費・謝金]</p> <p>①人件費 ・ ・ ②謝金 ・ ・ ・</p>					
<p>[旅費]</p> <p>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</p>					
<p>[その他]</p> <p>①外注費 ・ ・ ②印刷製本費 ・ ・ ③会議費 ・ ・ ④通信運搬費 ・ ・ ⑤光熱水料 ・ ・ ⑥その他（諸経費） ・ ・ ・</p>					
<p>[間接経費]</p>					
平成 29 年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成30年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]					
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費					
・					
・					
[人件費・謝金]					
①人件費					
・					
・					
②謝金					
・					
・					
[旅費]					
・					
・					
・					
・					
・					
[その他]					
①外注費					
・					
・					
②印刷製本費					
・					
・					
③会議費					
・					
・					
④通信運搬費					
・					
・					
⑤光熱水料					
・					
・					
⑥その他(諸経費)					
・					
・					
[間接経費]					
平成30年度	合計				

年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。
※年度ごとに1ページ

(前ページの続き)

＜平成31年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]					
①設備備品費	<p style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ</p>				
②消耗品費					
[人件費・謝金]					
①人件費					
②謝金					
[旅費]					
[その他]					
①外注費					
②印刷製本費					
③会議費					
④通信運搬費					
⑤光熱水料					
⑥その他(諸経費)					
[間接経費]					
平成31年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成32年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]					
①設備備品費	年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ				
・					
②消耗品費					
・					
・					
[人件費・謝金]					
①人件費					
・					
・					
②謝金					
・					
・					
[旅費]					
・					
・					
・					
・					
・					
[その他]					
①外注費					
・					
・					
②印刷製本費					
・					
・					
③会議費					
・					
・					
④通信運搬費					
・					
・					
⑤光熱水料					
・					
・					
⑥その他(諸経費)					
・					
・					
[間接経費]					
平成32年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成33年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
<p>[物品費]</p> <p>①設備備品費 ・ ・ ・</p> <p>②消耗品費 ・ ・ ・</p>					
<p>年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ</p>					
<p>[人件費・謝金]</p> <p>①人件費 ・ ・</p> <p>②謝金 ・ ・ ・</p>					
<p>[旅費] ・ ・ ・ ・ ・ ・</p>					
<p>[その他]</p> <p>①外注費 ・ ・</p> <p>②印刷製本費 ・ ・</p> <p>③会議費 ・ ・</p> <p>④通信運搬費 ・ ・</p> <p>⑤光熱水料 ・ ・</p> <p>⑥その他(諸経費) ・ ・</p>					
<p>[間接経費]</p>					
平成33年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成34年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
<p>[物品費]</p> <p>①設備備品費 ・ ・ ・</p> <p>②消耗品費 ・ ・ ・</p>					
<p>年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ</p>					
<p>[人件費・謝金]</p> <p>①人件費 ・ ・</p> <p>②謝金 ・ ・ ・</p>					
<p>[旅費] ・ ・ ・ ・ ・ ・</p>					
<p>[その他]</p> <p>①外注費 ・ ・</p> <p>②印刷製本費 ・ ・</p> <p>③会議費 ・ ・</p> <p>④通信運搬費 ・ ・</p> <p>⑤光熱水料 ・ ・</p> <p>⑥その他(諸経費) ・ ・</p>					
<p>[間接経費]</p>					
平成34年度	合計				

(前ページの続き)

＜平成35年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]					
①設備備品費	<p>年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「事業規模」は、「基本情報 8. 本事業経費」の各欄の金額と一致させてください。(金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください)。 ※年度ごとに1ページ</p>				
②消耗品費					
[人件費・謝金]					
①人件費					
②謝金					
[旅費]					
[その他]					
①外注費					
②印刷製本費					
③会議費					
④通信運搬費					
⑤光熱水料					
⑥その他(諸経費)					
[間接経費]					
平成35年度	合計				

事業実施の上での要望【1ページ以内】

○ 事業の実施に効果的な既存の制度の弾力的運用や解釈変更、改正の要望等があれば記入してください。

10年後に真にグローバルな競争力ある大学を目指す上で、現行制度上、何かボトルネックになっているものがあり、それに対して既存の制度の弾力的運用や解釈変更、改正などの要望があれば記入してください。

なお、本要望については、申請後、審査とは別途要望の裏付けとなる資料等の提出を求めることがあります。

※1ページ以内

また、特に要望等が無い場合は「特になし。」と記入してください。

本要望は参考であり、審査や補助とは関係ありません。

前項目から通しとなるようにページ番号を付番してください。

I. 様式3「共通観点2 共通の成果指標と達成目標」に係る成果指標				
1 (1) ①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国人教員等 (A)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち外国籍教員	<p>(成果指標データ集) I. については、【様式3「共通観点2 共通の成果指標と達成目標」】において記入した成果指標の値と同じ値を記入してください。</p> <p>数値については半角で記入してください。</p> <p>小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。</p>			
うち外国の大学で学位 取得した日本人教員				
うち外国で通算1年以上の 教育研究歴のある日				
うち外国で通算3年以上 研究歴のある日本人教員				
全専任教員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (1) ②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国人職員等 (A)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち外国籍職員	人	人	人	人
うち外国の大学で学位を取得 した日本人職員	人	人	人	人
うち外国で通算1年以上の職務・ 研修経験のある日本人職員	人	人	人	人
全専任職員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (1) ③教職員に占める女性の比率				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
女性教員 (A)	人	人	人	人
全専任教員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
女性職員 (C)	人	人	人	人
全専任職員数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	前項目から通しとなるようにページ番号を付番してください。			#DIV/0! %

(大学名：) (申請区分：)

1 (1) ④全学生に占める外国人留学生の割合				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国人留学生数 (A)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち、在留資格が「留学」の者	人	人	人	人
うち、在留資格が「留学」以外の者	人	人	人	人
全学生数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
外国人留学生数 (C)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち、在留資格が「留学」の者	人	人	人	人
うち、在留資格が「留学」以外の者	人	人	人	人
全学生数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (2) ①日本人学生に占める留学経験者の割合				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
単位取得を伴う海外留学経験者数 (A)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち学部 (B)	人	人	人	人
うち大学院 (C)	人	人	人	人
全学生数 (D)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち学部 (E)	人	人	人	人
うち大学院 (F)	人	人	人	人
割合 (A/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数 (G)	人	人	人	人
割合 (G/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %

(大学名：) (申請区分：)

(成果指標データ集)

1 (2) ②大学間協定に基づく交流数				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち単位取得を伴う学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴う大学院生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない大学院生数	人	人	人	人
全学生数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
大学間協定に基づく受入外国人留学生数 (C)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち単位取得を伴う学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない学部生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴う大学院生数	人	人	人	人
うち単位取得を伴わない大学院生数	人	人	人	人
全学生数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (4) ①外国語による授業科目数・割合				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
外国語による授業科目数 (A)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
英語による授業科目数 (D)	科目	科目	科目	科目
うち学部	科目	科目	科目	科目
うち大学院	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (E)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (F)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (G)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/G)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (D/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %

(大学名 :) (申請区分 :)

1 (4) ②外国語のみで卒業できるコースの数等				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国語のみで卒業できるコースの設置数 (A)	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース
うち学部 (B)	コース	コース	コース	コース
うち大学院 (C)	コース	コース	コース	コース
全卒業コースの設置数 (D)	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース
うち学部 (E)	コース	コース	コース	コース
うち大学院 (F)	コース	コース	コース	コース
割合 (A/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
外国語のみで卒業できるコースの在籍者数 (G)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち学部 (H)	人	人	人	人
うち大学院 (I)	人	人	人	人
全学生数 (J)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち学部 (K)	人	人	人	人
うち大学院 (L)	人	人	人	人
割合 (G/J)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (H/K)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (I/L)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (4) ④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組				
外国語力基準	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
	()	()	()	()
外国語力基準を満たす学生数 (A)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち学部 (B)				人
うち大学院 (C)	人	人	人	人
全学生数 (D)	0 人	0 人	0 人	0 人
うち学部 (E)	人	人	人	人
うち大学院 (F)	人	人	人	人
割合 (A/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %

大学が定める時点を記入してください。

(成果指標データ集)

1 (5) ①ナンバリング実施状況・割合				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
ナンバリングを行っている授業科目数 (A)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (D)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (E)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (F)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (5) ③シラバスの英語化の状況・割合				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
シラバスを英語化している授業科目数 (A)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (D)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (E)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (F)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
1 (6) ④奨学金支給の入学許可時の伝達				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数 (A)	人	人	人	人
奨学金を取得した外国人留学生数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %

(大学名：) (申請区分：)

(成果指標データ集)

1 (6) ⑤混住型学生宿舎の有無				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数 (A)	人	人	人	人
留学生宿舎に入居している外国人留学生数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
混住型宿舎に入居している日本人学生数 (C)	人	人	人	人
全日本人学生数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
2 (1) ①年俸制の導入				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
年俸制適用者 (教員) 数 (A)	人	人	人	人
全専任教員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
年俸制適用者 (職員) 数 (C)	人	人	人	人
全専任職員数 (D)	人	人	人	人
割合 (C/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
2 (1) ②テニユアトラック制の導入				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
テニユアトラック対象者数 (A)	人	人	人	人
年間専任教員採用者数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
2 (2) ①事務職員の高度化への取組				
外国語力基準				
	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国語力基準を満たす専任職員数 (A)	人	人	人	人
全専任職員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %

(大学名 :) (申請区分 :)

(成果指標データ集)

3 (1) ②学生の主体的参加と大学運営への反映の促進				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
学生による授業評価実施授業科目数 (A)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (B)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (C)	科目	科目	科目	科目
全授業科目数 (D)	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目
うち学部 (E)	科目	科目	科目	科目
うち大学院 (F)	科目	科目	科目	科目
割合 (A/D)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (B/E)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
割合 (C/F)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
3 (2) ①TOEFL等外部試験の学部入試への活用				
	平成25年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成31年度 (通年)	平成35年度 (通年)
対象学部入学定員数 (A)	人	人	人	人
全入学定員数 (B)	人	人	人	人
割合 (A/B)	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %	#DIV/0! %
II. 様式4「共通観点3 大学独自の成果指標と達成目標」に係る成果指標				
	平成25年度 ()	平成28年度 ()	平成31年度 ()	平成35年度 ()
	(人)	(人)	(人)	(人)
(指標2)	<p>(成果指標データ集) II. については、【様式4「共通観点3 大学独自の成果指標と達成目標」】において記入した定量的成果指標の値と同じ値を記入してください。</p> <p>() に実際の指標名、単位等を記入し、指標数に応じて適宜行を削除又は追加してください。</p> <p>数値については半角で記入してください。</p> <p>小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入してください。</p>			
(指標3)				
(指標4)				
(指標5)				

(大学名：) (申請区分：)